

# 平成30年度第2回青梅市図書館運営協議会会議録

平成30年11月1日(木) 午後6時～

中央図書館ボランティア室

## 1 あいさつ

会長

## 2 報告事項

### (1) 指定管理者による図書館の管理運営について

(指定管理者) [資料1にもとづき説明]

(委員) 5ページの「図書館システムトラブル」で、一時、月80件を超えたトラブルというのは、どのような内容ですか。また、9月には30件程度、3分の1ぐらいまで減ってきたところは、システム上のことなのか、使い方のところなのか教えてください。

(指定管理者) 内容はクライアントエラーが一番多かったのです。使い方というよりは、システムを究明するにあたって、原因をひとつ突き止めたことにより、エラーが減ったということになります。

(委員) 新システムを導入して、このシステム業者にも様々なトラブルに対する蓄積があると思うのですが、システムの不具合というのは固有に出てくるものですか。

(指定管理者) 旧システムからの移管がうまくいかなかったこともありますが、いろいろな面で後手後手に回った部分はあるとは思いますが、また、ICタグが新システムと相性が合わないこともエラーがなかなか減らない要因になります。

(事務局) ネットワーク系の機器は関係ないですか。

(指定管理者) ルータも古くて、直しています。

(事務局) 自治体ごとに機器との相性があるので、はじめてのエラー等も発生する要因かと思えます。

(委員) 1ページの(1)事業関係 ①会議・研修のところに「除籍資料担当者会議」というのがあるのですが、除籍資料とはどういうものがありますか。

(指定管理者) この会議では、資料の保存問題を多摩地区としてどういう除籍方針をもって取り組んでいこうという会議を行ったものになります。

青梅市では、資料を除籍するにあたっては、青梅市図書館資料除籍基準に沿って行っていますが、主に汚破損や情報が古くなったものが対象になります。

(委員) 中央図書館の前年同時期までの入館者は、今年度321,057人となっていますが、入館者数の確認は、どのような形で行っていますか。

(指定管理者) 入館者数については、BDSゲートのところにカウンターがついていて、自動にカウントされます。

(事務局) 入館者数の数字は中央図書館だけしか把握することができません。

## (2) 第2回青梅市図書館を使った調べる学習コンクールについて(資料2)

(指定管理者) [資料2にもとづき説明]

(委員) 応募のない学校は、何か特別な理由があったのでしょうか。

(指定管理者) 今年度から全小中学校に学校司書を配置しておりますので、特に応募できないという原因はないかと思えます。

(委員) ただ、こういうのは、基本的に学校の数を競うのではなく、生涯学習の、子どもたちが学んだことをどう表現していくのか、どれだけいろいろなものを自分で参加していくのかというところも、観点ではあるのかなと思っています。

13ページ②行事のところにある「百科事典を使ってみよう」講習会や「調べる学習相談窓口」ですが、今年度は昨年度と比較をしても調べる学習コンクールに関連する取組みを増やしているところは、子どもたちにとってはありがたいことですし、そういうものを準備して、提供していることは、非常にいいと思えます。

(委員) 14ページの③学校支援ですが、学校の先生方と図書館の方が、すごいまくいっている印象を受けたのですが、それはいつからですか。最近そのようになったのですか。

(事務局) 今年度から全小中学校に学校司書を配置したことが要因です。公共図書館側からの学校図書館支援のような位置づけをしたので、大きく専門性が高まったという状況にあります。

(委員) 学校支援のところで、ボランティアの方も随分活躍されています。P T Aの役員の方とは別に図書館ボランティアの方が朝朗読をしてくださっています。この三者の協力なくして成立しないように思います。

### 3 協議事項

#### (1) 第四次青梅市子ども読書活動推進計画（原案）について（資料3～7）

(事務局) [資料3～7にもとづき説明]

(委員) 第三次計画と第四次計画の違いは何ですか。

(事務局) 今までの取組で小学生までの読書活動は活性化していますが、中学生以上に課題があります。前計画の取組を継承しつつ、全発達段階で取組を進めるとともに、課題に対する取組を進めるということです。

(委員) インターネットの普及やテレビ映像などの影響もあるのか、視覚に訴えないとなかなか理解できないというか、活字を読んでもくれない傾向が年々が深まっているように感じます。視聴覚教育との連携ですとか、映画化されているものから原作を読みたいくなる、調べてみたいくなる、また郷土の映画でもいいのですが、そういうものを活用してみるのもいいかもしれません。

(事務局) メディアミックス的な手法というのは、事業を実施していく中でいろいろと手法を凝らして、図書館でも検討していきます。確かに映像はすぐ手に入る時代になり、活字による情報伝達方法がどんどん少なくなっているということはあると思います。しかし、活字をもう少し日常生活に取り込み、うまく読書に繋げていけるようにすることが必要ではないかと感じております。

(指定管理者) 図書館では、図書館ホームページに「ティーンズのページ」を立ち上げようと準備を進めているところです。今後、参加型のイベントやそういったものを呼びかけたり、中学生、高校生と一緒に何か事業をやるというようなことを考え、力を入れていこうと思っています。

(委員) 24ページ「(5) 図書館と学校連携推進重点校事業の実施」のところですが、「図書館と市内の小学校が連携した学校連携推進重

点校事業を毎年1校を対象として実施します」とありますが、全校実施となると17年かかってしまいます。小学校の義務教育6年間の間に各校1回、実施できるようにこれを拡充していくような方向性があれば、非常にありがたいと思います。このあたりをどのように考えますか。

また、学校図書館は電算化されていないため、蔵書等も全部アナログで作業を確認しています。そのため、膨大な時間がかかるため、図書館ボランティアの方にお手伝いしていただきながら実施しています。当然、同じ24ページの「(3) 学校図書館への学校司書配置による読書活動の充実」で学校司書を配置していますので、そういう方がリーダーになりつつ、教員とやっていくのですが、ぜひ、電算化等を含めて、計画の中に入れられるのかどうか、知りたいところです。

(事務局) 大人と子供のための読みきかせの会による講演会は、もともと学校連携推進モデル校事業として年1回行っていたものですが、平成30年度から小中学校全校に学校司書を配置し、図書館と連携体制が整ったということで、毎年1校を対象に学校連携重点校の取組を開始しているところです。今後も全校回るまでは続けていきたいと考えています。

学校図書館の電算化についてですが、20ページに「(11) 学校図書館の情報化の検討」の記載があります。導入したいという希望は持っているのですが、実現はしておりません。今年度も予算要求において、指導室を中心として実施していく方向で進めています。

(委員) もう一点、「(11) 学校図書館の情報化の検討」の「調査および研究を進めます」という部分は、表現としては、非常に曖昧なところがあります。どういった見通しの中で、子どもたちの読書環境をどうするのかというのが、やはり大切かなと思います。一步踏み込んでいただくとありがたいと思っています。

(委員) 何かを調べるきっかけとして、調べる方向性を定めるためにパソコンやスマートフォン、携帯電話を用いて検索し、調べたことの裏を取るために活字に入る、必要な資料を利用する。そういう流れが、メディアリテラシーというような問題に繋がってくる部分ですし、

逆に、積極的に検索する方法を指導していくと、そこをむしろ入口にして、読書へと導いていくのではないかと思います。

(指定管理者) 調べることは読むことなので、それがないと調べるが進んでいきません。まさに、本を使うことが調べる学習の一番の重要な観点ですので、そのとおりだと思います。

(事務局) 今後の予定としまして、本日の協議会以降、策定委員会にて(原案)を検討し、その後はパブリック・コメントを12月1日から14日の予定で行います。

その後、年明けになりますが、策定委員会部会、策定委員会を経て、教育委員会に諮り、計画が決定する予定です。

計画には、本日頂きましたご意見を、取り入れるようにしていきたいと思いますので、今後、お気づきの点がございましたら、よろしくお願いたします。

#### 4 その他

(事務局) 10月15日号の広報おうめにて、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、旧青梅市民会館の跡地に建設している青梅市文化交流センターが、平成31年度春頃にオープン予定です。

それにともない、現在、分館の青梅図書館が入っている「青梅市民センター」は文化交流センターに移動予定です。

その後の青梅図書館については、単独館として現在と同規模で運営をする予定です。

(会長) 以上で、本日予定していた案件は全て終了いたしました。委員の皆様方には、長時間にわたりご協議を賜りまして、大変ありがとうございました。

これをもちまして、平成30年度第2回図書館運営協議会を閉会いたします。本日は大変御苦労さまでした。

以上